
せみのぬけがら

蒲公英

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

せみのぬけがら

【Nコード】

N8550U

【作者名】

蒲公英

【あらすじ】

見てしまった事實は、消えない。夏に終わる恋もあります。

自分の男が他の女と寝ている部屋に入って行ってしまおう、なんて最悪な事態はオハナシの中だけかと思ってた。

まさかね、自分が遭遇するなんて想像もしないじゃない。

同棲中の部屋に女を引っ張り込んだ間抜け（つまり彼氏のことなんだけど）と、その相手の驚いた顔はスローモーション。

私は、びっくりするほど落ち着いていた。

落ち着いてたんじゃない、事態が呑み込めなかったんだ。

逆上してキレたのは、彼の方だった。

「何でこんな時間に帰ってくんだよっ！帰るって連絡もなしに帰ってくんじゃねえよっ！」

相手の女がその間何してたかよくわからない。

気がついたら、服を着終えた彼女がそそくさと私の横を通り抜けていった。

帰ってくんじゃねえ、とか言われても、家賃の半分は私が出してるんだし。

ウワキシテタンダ、ワタシノベッドデ ホカノオンナト。

全然実感のない上滑りな感情。悲しさも悔しさもない。

無表情な私にどう対処して良いのかわからずに、ワケのわかんないイイワケと逆ギレを続ける彼。

ねえ、ちよつと耳元で叫ばないで、落ち着いて考えさせて。

私の頭は混乱しすぎて、却って冷静になってゆく。

「別れるつもりなんかないんだ。あんなの遊びのうちなんだから」
呆然とした頭を呼び戻したのは、そんな言葉だった。

アソビデ ワタシノベッドニ ホカノオンナト イラレルンダ。

それは、行為そのものよりも酷い裏切りでしょう。

サンダルをひっかけて、外に出た。

追ってこようとする彼に「来ないで！」と背中を向けた。

「帰ってくるんだろうな？」

私がお賃出してる部屋に、帰らないわけないじゃない。

ただ、あのベッドは二度と使いたくないし、きっと彼とは二度と寝ない。

どんなに謝ったって、どんなに時間が経ったって、見てしまった事実と聞いてしまった言葉は消えない。

ああ、びっくりした。

家に帰ったのは午後の日が高い時間だったのに、もう夜が更けているじゃないの。

街路樹に蝉の幼虫が這いあがってゆく。

ガードレールに腰掛けて、それをずっと見ていた。

昼からの連続した出来事が、断片ごとに頭に繰り広げられる。

背中が割れて、白い蝉がちよつとずつ現れてくる。

生まれたばかりの薄い緑の透明な蝉。

綺麗だな、そう思った時に涙がこぼれた。

帰ってくるんだろうな、彼の言葉を頭の中で繰り返す。

帰りますとも、引越しの荷物をまとめるために。

怒りや憎しみよりも先に抱いたのは、彼への絶望だった。

これを持ったまま、彼の顔を見続けることはできない。

蝉が残した抜け殻は、まだ乾燥せずにそこにあった。

そっと手にとって眺めた後に、くしゃりと潰した。

彼との生活の始まりから今までが、手の中で小さくなった。

f
i
n
.

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8550u/>

せみのぬけがら

2011年7月16日06時53分発行